

# 『ソヴェト文化』総目次

吉 田 則 昭

## 解説

本稿で取り上げる雑誌『ソヴェト文化』とは、一九四五年十二月、ソヴェト研究者協会が設立され、翌年五月に同研究者協会が中心となって日ソ文化連絡協会（会長・土方与志）が生まれたことで、両者共同編集によって発行された雑誌である。当時のソビエト研究は、戦前の研究機関がすべて閉鎖されるとともに、研究者は丸の内三菱二十一号館のソ連代表部読書室に寄贈される雑誌などで情報を得ていたような状態であった。このソヴェト研究者協会には、自然科学、社会科学、教育部会、文学芸術部会の四部会に四百名の研究者が参集していたとされる。日ソ文化連絡協会の創立準備世話人（土方与志、式場隆三郎、蔵原惟人、

大竹博吉、除村吉太郎、亀井文夫、米川正夫、宮本百合子など）の多くは戦前にソ連滞在経験を持つ。

中でも、杉並区の自宅を創立事務所に提供し日ソ文化連絡協会の会長であった演出家の土方与志（一八九八—一九五九）は、戦前私財を投じて築地小劇場を建設、その後モスクワで国際革命演劇同盟書記局員となり、そのことにより史上初の華族の爵位剥奪という事件にもなった。一九四一年に帰国後、直ちに投獄、懲役五年の判決を受ける。一九四五年十月、土方が宮城刑務所から出獄後、しばらく栃木県那須野に在住、のちに日ソ文化連絡協会理事長に就任する。

一九四六年五月の創刊号の案内によれば、「日ソ両国の文化の交流交換を行う」ために、資料文献の交換、映画、

講演会等、日ソ文化紹介のための各種の催物を行うことを定めている。そして、「今度の戦争以来日ソ文化の交流は全く杜絶し、北方の窓は我々の前に固く鎖されてゐたのであるが、今後は本協会を通じて、ソ連邦の新聞、雑誌其他の刊行物がどしどし我々の前に提供されることとなるであらう」と述べるように、同誌はこうした文化活動、論考記事を掲載することが多かった。

創刊号では、「発刊の辞にかへて」（園部四郎）が掲載されている。また、一九四五年秋にシーモノフを团长とし、ゴルバートフ、アガーポフ、クドレワーティフの四人の作家からなる対文連代表団が来日する。シーモノフは「ロシアの人々」『昼となく夜となく』など当時のソ連の著名な作家、ゴルバートフは『降伏なき民』で知られ、クドレワーティフはのち雑誌『アガニョーク』の編集長、というメンバーであった。

創刊号巻末には、次のような案内が記されている。「真の民主主義を欲する者は、アメリカ的民主主義とともにソヴェト的民主主義を識らねばなりません。雑誌「ソヴェト文化」は、従来、軍国主義的官僚政府とその手先によつて行はれてきた反ソヴェト的、非科学的デマゴギーを排して、今日アメリカと並んで世界の二大民主主義的指導国家の一

であるソヴェト連邦の政治・経済・文化・科学全般に亘つてその正しき姿と世界史的意義を紹介する為に、ソヴェト研究者協会の権威ある編輯の下に、刊行される日本唯一の総合的なソヴェト紹介誌であります。ソヴェト文化社は雑誌「ソヴェト文化」を発行する外、同じ目的の下に主としてソヴェト連邦に関する啓蒙的刊行物を出版するとともに講習會、講演會等を通じて啓蒙的活動を行ふものです」

ここには、「日本唯一の総合的なソヴェト紹介誌」としながらも、GHQによる検閲を意識してか、アメリカ民主主義を讃えながらソヴェト的民主主義を讃えるという表現が奇異にみえる。さらに「編集後記」では、「幸ひソヴェト研究者協会といふ組織のおかげで他のエセ民主雑誌、営利雑誌にみられない優秀な原稿のみを集めることのできた」。そして、「この雑誌が日本の民主革命に、特に文化革命の上に、大きな意義と役割を演ずることを一又せむさうさせるといふことを私たちは確く信じてゐる」として、文化革命を同誌の方針として強く打ち出している。また『ソヴェト文化』は、他方、会員相互を結ぶ組織媒体として、会員の声や動向が雑誌に反映されることにもなつていった。特に占領期の民主化の動向を受けて、ソヴェト文化紹介の伝達媒体の役割だけでなく、会員に基盤を置いた文化普及雑誌

としての位置づけが明確になってくる。

一九四七年十一月(八号)から終刊する一九四八年十二月(十五号)までの間、『ソヴェト文化』は特集主義の体裁を取るようになる。参考までに、メリーランド大学ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵雑誌に依拠し、この時期の特集タイトルとその検閲処分・発行部数を例示すると、八号「社会主義建設の三十年」(削除一五、部数不明)、十一号「特集一、ソヴェト文学の新しい発展 特集二、引揚者にきくソ連の実相」(事前検閲多数、七〇〇〇部)、十二号「抑留生活の実相報告」(差止二、削除三、七〇〇〇部)、十三号「ソヴェトの藝術特集」(七〇〇〇部)、十四号「世界平和とソ連邦」(差止一、削除一八、部数不明)、十五号「ソヴェトの母子保護政策」(削除二、八〇〇〇部)というように、削除、差止の検閲処分が少なからず下されていることが知れる。また原稿は編集部に出されたものの発行されなかった号もある。

#### 【凡例】

一、各号の見出しには、巻号、発行年月日、定価、を記した。

二、標題は原則として本文から作成した。

各項目は、標題、筆者名、ページ(始め—終わり)の順で記した。

ページ数(ノンブル)の振り方は号によって異なる場合もある。

三、必要に応じて、\*を付して注記した。

四、旧字体は新字体(常用漢字・人名用漢字)に改め、仮名づかいは原文ままとした。

五、広告情報は割愛した。

創刊号 一九四六年五月

(昭和二十一年五月一日印刷、五月五日発行)

定価4円・送料30銭

編集人 ソヴェト研究者協会

発行人 桑名一央(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)

発行所 ソヴェト文化社(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

表紙..... 赤松俊子 表1

表紙文字..... 高橋錦吉 表1

カット..... 丸木位里・赤松俊子 表1

明るい農村 絵 説明文..... 丸木位里・赤松俊子 表1

発刊の辞にかへて..... そのべ・しろろ 表2

第二次世界大戦とソ連の役割..... 堀江邑一 表1

ソ研ニュース..... 堀江邑一 表1

ソヴェト民主主義と自由(上)..... 畑中政春 8

指導者のことば 革命のための根本法則 レーニン..... 8

「共産主義の左翼小児病」(一九二〇年)より..... レーニン 11

新世界の富..... 宮本百合子 12

新しいソヴェト人のタイプ..... 横田瑞穂 14

新しい人民文化..... 福井研介 16

ソヴェト愛国主義..... ゴルバートフ「二月二十四日」 21

ソヴェト研究者協会総会に於ける講演 井上 満「記」..... 21

児童娯楽施設..... アー・セメンチュク 27

二つの世代..... 田中實 28

科学トピックス..... 田中實 28

婦人地質学者の活動 抄訳..... 31

社会主義農業の話(一)..... 的場徳造 33

私達の教室「ソ連は何故太平洋戦争に参戦したか?」..... 園部四郎 33

日ソ文化連絡協会が生れる..... 日ソ文化連絡協会 38

ソヴェトの婦人 一九四六年三月八日国際婦人デーに寄せる..... 全連邦共産党中央委員会決定に依る 39

メルシエ將軍 芸術 イリヤ・エレンブルグ「作」..... 40

原子林二郎「訳」..... 46

赤い隅..... 46

「ソヴェト文化」読者会案内..... 47

編輯後記..... 47

ソ連邦国歌 露日文..... 48

編輯部..... 48

第二号 一九四六年六月

(昭和二十一年八月一日印刷、六月五日発行)

定価4円・送料30銭

編集人 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会

発行人 桑名一央(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)

発行所 ソヴェト文化社(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

表紙..... 赤松俊子 表1

表紙文字..... 高橋錦吉 表1

カット..... 丸木位里 表1

大胆に、同志よ、足並揃へて(楽譜と原詞)..... 丸木位里 表1

露文..... エル・ラデナ 1

戦後経済復興と新五ヶ年計画..... 西澤富夫 2

..... 9

トピック解説『イラン問題』とは何か？	8
ソヴェト民主主義と自由(下)	10
赤い隅(ボリス・ゴルバートフの日本印象記)	13
みんな知りたがっている	13、31
文化ニュース	14
ロシア文学と日本の小説	14
ロシア文学と日本の小説	14、15
園営商店の食料品価格引下げ	16
国営商店の食料品価格引下げ	16、17
戦勝の文学(一)	17
戦時ソヴェト文学の諸作品	17
モスコーの春	18
モスコーの春	18、23
科学トピックス	24
科学トピックス	24、25
五ヶ年計画は如何にして作られるか？	26
五ヶ年計画は如何にして作られるか？	26、27
読者の参加のために	28
読者の参加のために	28、30
大胆に、同志よ、足並揃へて(訳詞)	30
大胆に、同志よ、足並揃へて(訳詞)	30、31
講座 社会主義農業の話(一)	31
講座 社会主義農業の話(一)	31、36
私たちの教室 ソ連では私有財産はどうなっているか？	32
私たちの教室 ソ連では私有財産はどうなっているか？	32、35
三月―四月	32、35
三月―四月	32、35、36
ソ連戦災都市の復興 レニングレード	37
ソ連戦災都市の復興 レニングレード	37、45
北満・北朝の治安はなぜみだれたか？	45
北満・北朝の治安はなぜみだれたか？	45、46
その責任者は誰か？	46
その責任者は誰か？	46、47
ソヴェト研究者協会ニュース	48
ソヴェト研究者協会ニュース	48、49
編輯後記	48
編輯後記	48、49
モスクワの学童	表3
モスクワの学童	表3、4
政治的にも経済的にも解放されたソヴェト婦人	表4
政治的にも経済的にも解放されたソヴェト婦人	表4

第三号 一九四六年七月―八月「特集 ソヴェトの生活」  
 (昭和二十一年八月一日印刷、八月五日発行)  
 定価4円・送料30銭

編集人 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会  
 発行人 桑名一央(東京都神田淡路町一丁目十一番地)  
 印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)  
 発行所 ソヴェト文化社(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

表紙 モスクワの森	表1
カット	表1
ソヴェトの母と子	表2
腕に書かれた文字は「国際的デモクラシー」プラウダ紙より	表2
人民文化の栄える国	1
ソヴェトの芸術界	2
ソヴェトの生活 働く権利と休む権利	6
ソヴェトの生活 働く権利と休む権利	6、7
保護されているか？	8
保護されているか？	8、12
ソヴェトの生活 ソヴェト家庭の建設 特に母子法と離婚法を	12
ソヴェトの生活 ソヴェト家庭の建設 特に母子法と離婚法を	12、15
中心に	15
中心に	15、18
ソヴェトの生活 コルホーズ農民の生活	18
ソヴェトの生活 コルホーズ農民の生活	18、19
一切の問題が働く者の代表によって決定される ソヴェト最高会議	19
一切の問題が働く者の代表によって決定される ソヴェト最高会議	19、20
の記録	19
の記録	19、20
ソヴェト総選挙の総決算 最高会議の報告より	20
ソヴェト総選挙の総決算 最高会議の報告より	20、22
タヴァーリシチ	22
タヴァーリシチ	22、23
ゴリキイ十年忌 追悼の集り	23
ゴリキイ十年忌 追悼の集り	23、24
ゴリキイ回想	24
ゴリキイ回想	24、25
もりた・みえ・しるす	25
もりた・みえ・しるす	25、26
ニューズ	26
ニューズ	26、27
ゴリキイ記念出版(文と写真)	27
ゴリキイ記念出版(文と写真)	27、28

北極の科学者たち「砕氷船セトフ号」より……………	M・オシユルコフ〔撮影〕	24
(絵と文) 森のモスクワ……………	田中實	29
講座 五ヶ年計画の話(上)……………	赤松俊子	30
私たちの教室 ソ連では宗教はどうなっているか?……………	田村清吉	31
赤い隅……………	園部四郎〔担当〕	32
三月―四月……………	コジュヴコフ〔作〕 井上満〔訳〕	32
青年 楽譜と原詞、訳詞……………		36
ソヴェト研究者協会ニュース……………	イ・フレンケル〔作詞〕 エム・コヴァーリ〔作曲〕	46
日ソ文化連絡協会ニュース……………		47
各地ニュース……………		48
編集後記……………		48
ある労働者の家族……………		表3
17人の子供を育てた 農村の母性英雄 アンナ・ヴェリアエワ……………		表4
おばさん……………		表4

第四号 一九四六年九月「座談会 最近のソヴェトを語る」  
 (昭和二十一年九月一日印刷、九月五日発行)

缶詰の果物……………	ポリス・エフイーモフ〔画〕	1
座談会 最近のソヴェトを語る……………		
坂田二郎「前同盟通信社モスクワ特派員」・清川勇吉「前朝日新	聞社モスクワ特派員」・大竹博吉	2
待ちたまへ 楽譜と原詞、訳詞……………		14
アネクトドト……………	コンスタンチン・シーモンフ 小川亮作〔訳〕	14
ナデイジンスクにおける27人のバチザンへのバラアド……………	尾形昭二	15
……………	ルイ・アラゴン 大島博光〔訳〕	16
ロシアの生んだ歴史画家ワシーリ・スリコフの30年忌……………		17
講座 五ヶ年計画の話(下)……………	田村清吉	19
紹介 ソヴェト勢力の形態……………		20
……………	エドガー・スノー著・木下秀夫訳	23
一九四五年 栄あるスターリン賞受領者 芸術部門……………		24
出版だより……………		25
体育祭の行進……………		26
……………		27
コルホーズの機械化……………	的場徳造	28
戦勝の文学(一) 戦時ソヴェト文学の諸作品……………	小川亮作	31
ソヴェトの婦人代議員……………		33
私たちの教室 ソヴェトの労働賃銀はどうなっているか?……………		35
……………	園部四郎〔担当〕	36
短波ニュース……………		37
……………		37
コザツクの女(一) 原名ベーラヤ・メチエーチ……………		37
……………	横田瑞穂〔訳〕	38
赤い隅……………		38
……………		44
南樺太と千島列島の日本人はどうしているか?……………		45
ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会・共同ニュース……………		46
……………		47

グラフ 一九四五年度のスポーツ・パレード…………… 表2、26、27

読者通信	48
編輯後記	48
新五ヶ年計画の復興は進む(3枚)	表3
グラフ 一九四五年のスポーツ・パレード	表4

第五号 一九四六年十月〜十二月  
 (昭和二十二年十一月一日印刷、十二月五日発行)

定価4円・送料30銭  
 編集人 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会  
 発行人 桑名一央(東京都神田淡路町一丁目十一番地)  
 印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)  
 発行所 ソヴェト文化社(東京都神田淡路町一丁目十一番地)

ソヴェト議会風景	表2
代議員の横顔「クロコデイル誌」より	1
社会主義と科学	2
ソヴェトの医療制度	6
ソヴェトの配給監督制度	12
建設ニュース	13
ソヴェトの通俗科学雑誌「科学と人生」について	12
科学トピックス	14
一九四五年 スターリン賞受賞 雕刻作品	14
一九四五年 栄あるスターリン賞 科学部門	17
カリニンと農民	18
復興するソヴェト	19
ソヴェト議会の話	20
	21

レーニン・スターリン・ゴーリキイ	22
短波ニュース	24
講座 ソヴェト労働者の話(その二)	26
ソヴェト労働者の社会的地位	27
私達の教室 ソヴェトではなぜ肅正行はれるか?	30
カリニンの国葬	31
編輯後記	表3
タマール・ハヌム スターリン賞受賞者、ウズベキスタン共和国人民俳優	表4

第六号 一九四七年九月

(昭和二十二年九月一日印刷、九月五日発行)

定価15円	
編集者 *ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	
*今号より「編集者」と表記	
発行人 桑名一央	
印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	
発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	
トラクターを運転するタヂク共和国の婦人	表1
「復活」の楽屋を訪れたソヴェト人	表2
世界労連ソヴェト代表タラソフ氏とデレウイヤンコ中将	表2
ソヴェトの民族政策	1
CCCPとは何か?	5

ソ連邦を構成する十六の共和国(1).....	6
私の見たロシア革命.....	8
私たちの教室 ソヴェトの独裁は全体主義ではないか?.....	14、5
新聞にてた記事・でなかった話 スターリンとスタッセンの会談.....	15、5
死刑の廃止.....	園部四郎「担当」
一九四六年 輝かしい度スターリン賞受賞者 芸術部門.....	S・S生 16
科学トピックス モスクワ大学.....	17
農民のページ ソ連邦農業における航空機の利用.....	18
第二十五収容所 シベリヤの俘虜.....	19
文化トピックス 子供向け記録映画「ピオネリヤ」第二百号.....	21
引揚者のページ.....	五島十三雄「ソ連地区からの復員者」 22
本誌前号内容.....	*表3ではなし
ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会ニュース.....	26
編集後記.....	27
解放されたソヴェトの諸民族.....	27
第七号 一九四七年十月 (昭和二十二年十月一日印刷、十月五日発行)	表 4
定価 20円	
編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	
発行人 桑名一央	
印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	
発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	
コルホーズ員マルク・エスタフイエヴィッチ・オジヨールスイ	

カット 村の娘たち.....	今村主税
「生活は楽しくなった」.....	除村吉太郎
本誌前月号目次.....	表 1
新五カ年計画はどうして進められるか?.....	園部四郎 8
科学トピックス 56染色体小麦と70染色体小麦.....	的場徳造 12
ソ連邦を構成する十六の共和国(2).....	的場徳造 13
連邦共和国の領土と人口.....	14
秋 絵と文.....	赤松俊子 15
コルホーズはどうして作られる.....	的場徳造 16
スターリン賞にかがやく二つの映画「習い」と「ナヒーモフ提督」.....	土方敬太 18
一九四六年度学術部門スターリン賞.....	22
農民のページ 豊かになった農村の生活.....	22
ソ連を訪れた郭沫若と茅盾.....	齋藤玄彦 27
児童図書館の話.....	吉原武安 28
第二十五収容所(完) シベリアの俘虜.....	五島十三雄 28
ソ連兵と腕時計.....	S・S 32
私達の教室 ソ連にはなぜ失業者がいないか.....	園部四郎 34
「ソヴェト文化」既刊号内容.....	35
編集後記.....	35
(広告) 書籍広告.....	表 4
第八号 一九四七年十一月〜十二月「特集 社会主義建設の三十年」 (昭和二十二年十一月一日印刷、十二月五日発行)	
特価 25円 *「特価」の表記	
編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	



発行人 桑名一央

印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)

発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)

第九号 一九四八年一月

(昭和二十三年一月一日印刷、一月五日発行)

定価20円

編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会

発行人 桑名一央

印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)

発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)

赤衛兵と語るレーニン	カット・今村主税	表1
画集 十月のレーニン	ベ・ワシリーエフ「画」	表2
ソヴェト経済の三十年	堀江邑一	3
ロシア社会主義十月革命三十周年「ソヴェト文化の集い」		10
私達の教室 ソヴェトとは何か	園部四郎	11
ソヴェト農業の三十年	的場徳造	12
ソヴェト文学の三十年	土方敬太	16
スターリンの祝辞	M・I 訳	20
モスクワ八百年 大劇場における祝賀会	「タス」通信	20
ソ連邦を構成する十六の共和国(3)		22
十月祭の思い出	岩田みさこ	24
子供の家の革命記念日	土方敬太	27
講座 十月革命の話	大竹博吉	28
革命三十年祭を迎えるソヴェト映画界	かねこけん	32
一九四六年 発明および生産方法の改良	スターリン賞	32
シベリヤ随想(俘虜記)	今村主税	37
ソヴェト・ニュース		38
或るピオニールの話		39

編集後記

ソ連邦略図 加盟共和国・主要都市図

(広告) 書籍広告

表3  
表4

表紙	赤松俊子	表1
カット	今村主税	表1
死せる英雄に栄光あれ 一九四五年度スターリン賞受賞作品	エフ・エス・バガロドスキー	3
ソヴェトの教育制度	福井研介	9
ソヴェトの社会科学(1)		11
1月の歴史こよみ		11
ソヴェト文化愛好会	K・K	11
ソ連邦を構成する十六の共和国(4)		12
ソヴェトの都市人口		12
社会主義競争とスタハノフ運動	園部四郎	13
炭鉱労働者に位階制が設定された	大谷孝雄	18
ファデーエフの新作「若き親衛隊」	袋一平	20
ソヴェトの女流雕刻家ヴェーラ・ムヒーナとその作品		22
ソヴェト演劇の近況	土方敬太	24
ソヴェトの東洋学		26
ソヴェトの農業の指導者 イワン・ミチュエーリン		27

私達の教室 ソ連ではインテリとはどんな人々をいうのか?

的場徳造 31

一九三七年現在ソヴェト・インテリゲンツィアの職業別構成	園部四郎	32
ロシア人の印象	橋本正雄	33
ソヴェト人の教養	祖泉隆平	34
ソヴェト・ニュース	新五ヶ年計画の進行ぶり	34
編集後記		35
(広告) 書籍広告		表 4

第十号 一九四八年二月(昭和二十三年二月五日発行)

\*今号から印刷日なし

定価20円

編集者	ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	
発行人	桑名一央	
印刷所	竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	
発行所	ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	
レーニン・スターリン・スヴェルドロフ	ワシーリエフ	表 1
ソヴェト画壇の長老	コンチャロフスキーの家庭と作品	2
戦後ソ連の国民所得	馬込潜	3
信賞必罰 受容所生活の追想	N・M正	6
ソ連の国民はどうな税金を納めるか?	園部四郎	7
ソヴェトの社会科学(2・完)		10
言語学者ニコライ・マール	人となりと学説	12
コルキーズ農民のための住宅設計	大島義夫	15
話題 ソ連の科学者はどんな待遇をうけているか?		16
	ボポフ博士	17

ソヴェト哲学界の近況	A・O生	18
ソ連邦を構成する十六の共和国(5)		18
最近のソヴェト文壇	横田瑞穂	22
ソ連邦の勲章と称号		22
講座 ソヴェトの労働組合(1)	西澤富夫	26
ソ連女性二態	S・M生	29
ソ連炭鉱経営の實際	花井頼三	30
ソヴェト・ニュース		32
私たちの教室 ソ連の新通貨発行の狙いは?	園部四郎	34
2月の歴史暦・2月に生れた人々		35
あとがき		35
(広告) 書籍広告		表 4

第十一号 一九四八年五月(昭和二十三年五月五日発行)

「特集1 ソヴェト文学の新しい発展

特集2 引揚者にきくソ連の真相」

定価25円

編集者	ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	
発行人	桑名一央	
印刷所	竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	
発行所	ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	
表紙	寺島貞志	表 1
19世紀の進歩的画家ニコライ・ヤロシエンコ		2
座談会 ソヴェト文学の新しい発展		3
10月革命30周年記念日のモスクワ	山村房次・除村吉太郎・井上満・福井研介	11

ソヴェト・ニュース	12
シユミット博士とチェリユースキン探検隊	13
ソヴェト・ニュース評	14
講座 ソヴェトの労働組合(2・完)	17
チユス世界選手権争奪戦	18
ソヴェト戯曲コンクール	19
ソヴェト戯曲コンクール	20
マルシャンスク博物館見学記	23
男女共学の廃止	24
丸美好	24
馬鹿者の型「クロコデイル誌」より	25
平田重明	26
引揚者にきくソ連の実相	28
吉本象雄・朝泉隆平・西出實	29
園部四郎	30
私たちの教室 ソヴェトにおける批判の意味は?	33
3月の歴史暦・3月生れた人々	34
安心なさい「クロコデイル誌」より	35
編集後記	35
(広告) 書籍広告	35
第十二号 一九四八年六月	表 4
(昭和二十三年八月五日発行)「特集 抑留生活の実相報告」	表 1
定価 30円	表 1
編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	表 1
発行人 桑名一央	表 1
印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	表 1
発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	表 1
表紙	表 1
カット	表 1
寺島貞志・高柳博也	表 1
今村主税	表 1

ブルガリヤの音楽娘	表 2
タンポフ工場の生活	表 2
すばらしかったヨーロッパ・ソ連の捕虜生活	表 2
田鎖源一	3
マルシャンスク7064收容所	5
高柳博也	5
民主主義運動の勃興	7
高柳博也	7
作業とノルマ	9
高柳博也	9
ソヴェト女性点描	10
天野貞夫	10
マルシャンスクの街	11
高柳博也	11
戦争と復興	13
南信四郎	13
音楽の国民	13
高柳博也	13
N大尉の思い出	14
菅原時雄	14
満洲引揚の一挿話	15
高柳博也	15
村の踊り	16
園部四郎	16
私たちの教室 ソ連引揚者の反ソデマはなぜ起ったか	17
園部四郎	17
ソ連断章	17
八秋	17
迷論と「卓見」	18
尾形昭二	18
ソ連音楽家の幸福	19
関 鑑子	19
文化ニュース	19
昇曙夢	19
シヨロホフ「彼等は祖国のために戦えり」	20
昇曙夢	20
天分「クロコデイル誌」より	23
ソルゲルネフと将軍「クロコデイル誌」より	23
馬正義太郎	23
エイゼンシテインの悲劇	24
丘英通	24
講座 ソヴェトの生物学(1)	25
座談会 ソヴェト文学の新しい発展(2・完)	28
山村房次・除村吉太郎・井上満・福井研介	28
4月の歴史暦	29
「ソヴェト文化」既刊号内容	34、35

あとがき	35
(広告) 書籍広告	表 4

第十三号 一九四八年八月

(昭和二十三年八月五日発行)「ソヴェトの芸術特集」

定価35円

編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会

発行人 桑名一央

印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)

発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)

カット	表 1
ある日のソヴェト芸術家 レニングラードの舞踏家	
アルラ・シエレストさん	表 2
ソ連の歩み 政治—生活を明るくする政治	S・S 3
ソ連の歩み 外交—米ソ覚書事件	S・O 4
ソ連の歩み 文化—民族文化の開花	M・I 5
シヨスタコーヴィツチの横顔	園部三郎 6
ソヴェト作曲界の三巨匠	8
ソヴェト音楽 その特徴と現状	8
ソヴェト音楽は如何に批判されたか?	成田梅吉 10
党の音楽批判はどのような反響をよんだか?	10
「現代ロシヤ音楽の夕」を語る 山根銀二ほか	11
一九四七年度スターリン賞 音楽の部	12
セルゲイ・アブラツォフとソヴェトの人形劇	T・K 14
コンチャロフスキーの思い出	矢部友衛 16
一九四七年度スターリン賞 文学の部	M・I 16

一九四七年度スターリン賞 映画の部	K・H 18
ミホエロスの死	土方興志 19
漫画 重量揚選手の生活二面「クロコデイル」誌より	19
講座 ソヴェトの生物学(2・完)	丘英通 21
ソヴェト・バレエの最初の道標	中根宏 24
東京通信	27
夏の思い出	岩田みさこ 28
幣制改革の前後	田邊稔 28
極東ソ連の近況	宮元健治 30
東欧ニュース	31
次号予告	31
蒙古の工場風景	清水久 32
あとがき	33
映画紹介 愛への誓い レンフィルム製作所一九四七年度作品	34

(広告) 書籍広告	34
第十四号 一九四八年十月(昭和二十三年十月五日発行)	表 3
「特集」世界平和とソ連邦	表 4
定価35円	
編集者 ソヴェト研究者協会・日ソ文化連絡協会	
発行人 桑名一央	
印刷所 竹田印刷所(金沢市松ヶ枝町五番地)	
発行所 ソヴェト文化社(東京都杉並区永福町三六一番地)	
カット・挿絵: 寺島貞志・今村主税・高柳博也・藤島拓郎	表 1
炭坑の町—マケエフカの復興	表 2



収容所のアトリエ	高柳博也	32
数字と事実 ソヴェトではどんな書物がどれだけ出版されるか？		33
「ジオネールの家」のはなし	そのべ・しろう	34
(広告) 書籍広告		表3
		表4

## 投稿規程

- 一、投稿に資格制限はありません。
- 二、テーマは大衆文化に関するもの。
- 三、枚数は四〇〇字詰め原稿用紙換算で、二〇枚程度。
- 四、採否は編集委員会で決定します。
- 五、投稿は随時受け付けていますので、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター宛てにお送り下さい。なお原稿はお返ししません。